

ビジネスに繋がるインサイトを発信し 事業共創文化を創る



OPEN HUB の4つの機能のうちの1つである「OPEN HUB Media (以下、「MEDIA」)」は、企業の DX 推進やビジネス創出に役立つ情報豊かで幸せな未来をとって社外に向けて発信している。最新トレンドと独自のインサイトを網羅したコンテンツは幅広い層から多くの関心を集めている。

クリエイティビティを 刺激するオウンドメディア

オウンドメディアである「OPEN HUB Media」の記事は年間約 120 本、イベント・セミナーは約 90 回に及ぶ。その特徴は、NTT Com のソリューション訴求に捉われない多角的な視点にある。メルマガ会員は約 40 万人というだけあって“気づき”を創出し、クリエイティビティを刺激する内容は、読み物としても

非常に読み応えがある。既に答が出ているものを取り上げるのではなく、答えを読者と共に探求するというコンセプトに基づき、全体の軸となる ISSUE (特集) を設定、特集に合わせて JOURNAL (記事)、PROJECT (事例紹介)、EVENT (イベント・セミナー) なども企画・発信している。

●ISSUE (特集)

3 か月に 1 度のスパンで新たなインサイトを発信 (図 1)。例えば



NTT コミュニケーションズ株式会社
ビジネスソリューション本部 事業推進部
マーケティング部門 担当課長
OPEN HUB Chief Catalyst
矢三 由佳理 氏

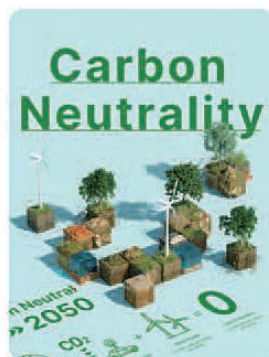


ロボットと 人との共生

ロボットは人の感性を刺激し、新しい知恵を与え、社会成長に欠かせない存在になりつつあります。理想的な社会をつくるための、ロボットと人が共生する未来像を考えます。



PARTNERSHIP With ROBOTS



脱炭素のために デジタルでできること

世界中で加速するカーボンニュートラルへの動き。地球の危機的状況を前に、デジタル技術はどう活用できるのか? 専門家や先駆企業とともに、新たな時代の社会変革を読み解きます。



Carbon Neutrality

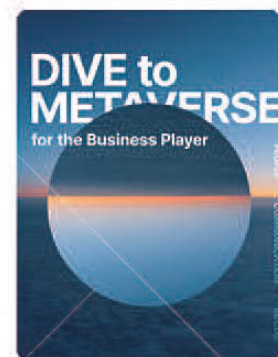


答えはここに。 今使いたい最新テクノロジー

計画から実装へ。Smart World の実現に欠かせないのは、信頼性をもった最新のデジタルテクノロジーのインストロールです。多様で革新的なサービスの正体に迫ります。



New Technologies



ビジネス“プレイヤー” のためのメタバース

注目されるメタバース市場。社会・産業の発展へとつながるのか、はたまた薄く消えてしまうのか。その答えは、ビジネスを生み出してきた、私たち“プレイヤー”が握っているはず。



DIVE to METAVERSE

図 1 過去に発信した ISSUE

2023年11月からはGX特集として「脱炭素のためにデジタルでできること」をテーマに、世界中で加速するカーボンニュートラルへの動きとデジタル技術の活用についての問いを投げかけた。“GXとは何か？”から始まり、カーボンニュートラルと脱炭素との違い、企業がGXに取り組む際のメリット・デメリット、政府の取り組み、事例紹介までをわかりやすい解説と発想力を刺激するクリエイティブで紹介した。

● JOURNAL (記事)

有識者へのインタビューや先進事例など、最新トレンドにフォーカスしながらも独自のインサイトを網羅したコンテンツを企画制作。新規ビジネス創出へのヒントとなる情報を届ける。

中でも、さまざまな領域のクリエイターを招き、社会の本質を見抜く洞察力を探究する連載シリーズ「Creator's Voice」は非常に興味深く反響も大きい。樋口恭介氏(SF作家)、山口周氏(独立研究者)、豊田啓介氏(建築家)、渡邊康太郎氏(コンテクストデザイナー)など第一線で活躍する人物に対し、毎回OPEN HUBのCatalystがインタビューするスタイルで構成される。

● PROJECT (事例)

OPEN HUB で生まれた共創プロ

PROJECT

共創プロジェクトの「いま」を発信。社会実装済の事例のほか、進行中のプロジェクトについても随時アップデートし紹介する(図2)。



2024.01.17(Wed)

緊急時の医薬品配送、陸がダメなら空から。24.5kmにおよぶドローン配送実験から見た可能性とは



2023.12.22(Fri)

カーボンニュートラルで注目を集める鉄スクラップ資源循環の見える化に挑むサーキュラーエコノミープロジェクト

図2 過去に発信したPROJECT

ジェクトの“いま”を発信。社会実装済の事例のほか、進行中のプロジェクトについても随時アップデートし紹介する(図2)。

● EVENT (イベント・セミナー)

“明日から使える先端技術の紹介”“未来を思考するトークセッション”など最新技術やトレンドに関するイベントやセミナーを開催。記事を読むだけでは理解しづらい内容も、有識者やCatalystが生の声で解説することで、読者・視聴者の理解度をあげビジネスへのインサイトを深める工夫を凝らしている。

企業の事業共創文化を創る

「MEDIA」を運営するうえで、“NTT Com = インフラ事業者”というイメージを払拭したかったと語る矢三氏は、兼ねてより外部のメディアと連携した取り組みを模索していたという。社会課題が複雑化する中、企業が自社のみで取り組むことには限界がある。しかし共創により、課題を解決だけでなく社会の流れをも変えることができる。そうした想いの下、NTT Comは、グローバルビジネス誌Forbes JAPANと共に「Forbes JAPAN Xtreprenuer AWARD 2023」を立ち上げた(図3)。

Xtreprenuerとはアントレプレナーでもイントレプレナーでもない、次世代を担う多様な事業共創家を意味する。そして本アワードは企業

が積み重ねてきたレガシー(資産、アセット、技術など)を掛け合わせることで、新しい価値を生み出し、複雑化する社会課題を解決するプロジェクトを評価する。

より広い層へのアプローチと共創文化の定着を目指して

「MEDIA」はOPEN HUBの存在や活動を幅広い層に認識してもらうエンタランスとしての役割を担う。「今後、OPEN HUBの活動をMEDIAを通じて積極的に発信することで、NTT ComのDXや共創に関する事業認知やお客様からの期待値を高めていきたいと思っています。また、Forbes JAPAN Xtreprenuer AWARDへの取り組みについてもさらに充実を図り、共創を文化として定着させていきたいと思っています。」(矢三氏)。

※1 https://forbesjapan.com/feat/xtreprenuer_award_2023/



図3 Forbes JAPAN Xtreprenuer AWARD 2023